



無料の学習支援と食事提供の「子ども食堂すこやか」の取り組み



子ども食堂すこやかプロジェクト事務局長 佐藤 まさ

家族が忙しく、温かい食事がとれず一人で食事する子どもが少なからずおります。そのような子どものために、私たちは昨年3月に『子ども食堂すこやかプロジェクト』を立ち上げ、「子ども食堂」の開設の準備に入りました。当会は、「子ども食堂」を通して居場所づくりの支援をしたいと集まった元教師や元看護師、大学生等のボランティア組織です。まずは、子どもの置かれている状況や子ども食堂の運営について学習し理解を深めました。当会の子ども食堂の開設は、弘前市においては3か所目です。

運営方針は、

- ・無料で誰でも参加できること。
 - ・学習支援や温かい食事を提供すること。
(大学生に学習支援をお願いしました。)
 - ・開店日は、月1回、第2土曜日とし、夏休みや冬休み・春休みは毎週開くこと。
- 場所は、弘前市社会福祉センターを無料借用できました。



当日は9時15分からの全体会、学習支援と食事支援の担当者の打ち合わせを行い、種々な報告や情報の共有、メニューや初参加者の紹介をします。10時～11時30分までは学習支援の時間です。主に学生は子どもの年齢や学年に応じて宿題やドリル等を進め、就学前の子どもは遊びを中心にしています。また、保護者の相談にも応じます。11時30分からは食事会、20名から30名が一堂にテーブルを囲む様子は圧巻です。必ず汁ものを出す事と、季節の花々も花瓶にさしています。12時30分頃までは食事やおしゃべり、食後13時30分頃まで各自遊びをして解散となります。



2016年7月23日に第1回目の「子ども食堂」を開いて、まもなく1年。6月で16回を数えました。更には昨年秋から、大学生を講師に現在中学生の夕方の学習塾(約2時間程度)も9回開いています。勿論食事有りです。現在、当「子ども食堂」に参加している家族は4組(子ども6名、母親3名)。年齢も3歳から中学1年生まで、地域も広範囲になっています。1名～9名とその日により参加人数に幅がありますが、都合により参加できないときは食事を届けています。

子どもたちは参加を楽しみにしており、学生は子どもからは何でも知っている頼もしいお兄ちゃん・お姉ちゃんです。現在中学1年の男子生徒は、おしゃべりの大好きな一人っ子。学生を独占するようにおしゃべりをし、勉強にはなかなか進みませんでした。最近勉強意欲も出てきて、希望の高校も話しています。また、3歳、5歳の男の子と母親の家族は、健康上の問題や育児上の不安を抱え、毎回参加はできませんが、参加時は家でできない駆けっこを思いっきり行っています。母親の体調不良で参加できない時は、「参加したい!」と子どもが泣いて駄々をこねるとの事。また学生の一人は、自分の弟のようだと話していました。

今後も当会のささやかな実践が、ソーシャルアクションの一端を担っていくことができれば幸いです。



※日本の子どもは、実に7人に1人(2015年)が貧困状態に置かれ、先進国の中でも深刻です。この状況は、どの家庭においてもひとたび困難な出来事が起きれば、子どもが貧困状態に陥るとも言われています。青森県の子どもの貧困率は全国でもワーストグループに属し、東北の中でも最悪です。子どもは、日本の将来を担う大事な宝、どの子も健やかに成長してほしいと願います。



はっぴいエコプラザについて

はっぴいエコプラザは㈱紅屋商事様と社会福祉法人七峰会、抱民舎がコラボレーションして行っている資源回収運動です。弘前市の再生資源回収運動を利用し、お持ちいただいた資源は㈱伸和産業様に買い取っていただき障害福祉サービス利用者に工賃として支払っています。はっぴいエコプラザ（以下エコプラザ）は、カブセンター神田店（ゆいまある）、カブセンター黒石店（黒石山郷館）カブセンター弘前店（エイブル）で行っており、4月～12月の毎週土曜日10時～15時に営業しています。回収品目としては①新聞紙②雑誌③段ボール④牛乳パック⑤アルミ缶⑥スチール缶⑦ペットボトル⑧トレイ⑨その他プラスチック⑩衣類の10品目です。缶やペットボトル等は、市の収集曜日が限られているため、お客様からは好評をいただいております。お子様が率先してリサイクルをする機会になっているとお話しされる方もいます。尚、資源をお持ちいただいたお客様には、その量や種類に関わらず、お持ちいただいた店舗でお使いいただける10%割引券を差し上げています。同店やお客様のご協力があるのが活動ですが、回数を増すごとに発券枚数が増加し、ご利用されるお客様の確かな増加が見え、携わっている利用者の方々も「忙しい！」と笑顔で躍動されています。

『捨てればゴミ、集めれば資源』そんな循環を障がいを持っている方が支えていて、暑いなか、寒いなかでも嬉々として取り組んでいる様子に、企業とお客様、資源と環境の架け橋を担っているのではと考えています。

お金には変えられない役割、活躍がもたらす生きがいを地域貢献という形で実現し続けていきたいと思っております。資源回収に、ご協力とご理解をよろしくお願いいたします。



社会福祉法人抱民舎 ゆいまある
障害福祉サービス事業所 エイブル

佐々木 琢磨
藤 森 健吾



『ほっとぼらんていあ』に参加して —傾聴ボランティア講座—

数年ぶりに参加しましたが、今回はとても人数が多くて、すごく緊張しました。

講師の小田切さんの話を聞いているうちに、以前、私も精神的に不安定な時に相談を聞いてもらえて、とても心が落ち着いたことを思い出しました。誰かに話しを聞いてもらえるだけでも気持ちは楽になると思います。今回の話のなかで私が一番心に残って言葉は「その人の痛みを分かることは出来ないけれど、分かろうとすることは出来る」です。魔法のような言葉で、涙が出そうになりました。あの時、小田切さんに相談できて良かったと思いました。

今後は、子育てでも傾聴を役立てたいです。

M・M



編集後記

大人になると、家族と暮らしている、いないに関わらずひとりで食事をするのが多くなります。

「ランチメイト症候群」という言葉を耳にしました。会社などひとりで食事をするのが苦手。反対にひとりがいいのに誘いを断れなくストレスを感じている人たちのことだそうです。

「こども食堂」のようにこどもの時だけでも月1回、長期休み期間は週1回でも色々な年齢の人たちとの食事は将来的に良い経験になるような気がしました。



豆知識 ポン酢



冷しゃぶ、ところてん、冷奴など幅広く使われているポン酢。これからの暑い時期は大活躍ですね。

ポン酢のポンはいったいどのような意味なのでしょう？食卓の上にポンと置いてあるから…。

いえいえ違います。実はポン酢のポンはオランダ語で柑橘系のしぼり汁を表す「ポンス」からきています。ポンスのスと酢をかけてポン酢という名前になったそうです。



＜製作＞市民ボランティアスタッフ＜製作協力＞弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/

※ URL が変更になりました。
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。